

## 鳩間島島民の自然観に関する研究

### A study on the nature view of islanders in Hatomajima, Okinawa Prefecture

岡田萌子 (Moeko OKADA)

近年、「環境問題」に対する関心が高まり、それと共に「自然」に対する関心が高まっている。そして今日、世の中には「自然」という言葉が溢れている。その一方で、自然と直接的に関わることが少なくなっている人が増えているという状況にある。「自然」と関わる人が少なくなった人々は、実際に「自然」を感じる機会は少なくなっているにもかかわらず、マスメディアによる「自然」という言葉の乱用や、そこから我々が得る情報は莫大なものとなっている。このような理由から、「バーチャルな自然観」が定着しつつあるのではないか。このことは、自然と人間との結びつきが非常に弱まっていることを示しているのではないか。では、「自然」と密接に関わって生活している人々の「自然観」とはどのようなものなのであろうか。

以上のような動機から、本研究では、現在でも半農半漁の半自給自足的生活の行われている鳩間島の人々の自然観を研究することを目的とした。鳩間島は沖縄県八重山郡竹富町に属している島である。人口約70名、周囲約3,9kmで、歩いて一時間ほどで一周できてしまうほどの小さな島である。

研究方法として、ANTHROPACで提案されている聴取技法である「フリーリスティング」(自由記述)と「パイルソーティング」(カード分類)を用いて直接面接法にて調査を行った。フリーリスティングでは、自然と聞いて思い浮かぶ単語を挙げてもらった。パイルソーティングでは、フリーリスティングの結果を用いてカードを作成し、それ

を自由に分類してもらった。カードに記入した言葉は、原則3名以上の回答があった単語で「海・緑・風・空気・空・草・星・台風・生活・鳥・保護・水・雨・木・生き物・共存・神様」である。以上の調査と平行して、自然や生活に関する聞き取り調査を行うと共に、現地の様子を記録した。また、補足調査としてマッピング(島の地図を書いてもらうこと)を行った。

その結果、「フリーリスティング」24件、「パイルソーティング」11件、「マッピング」2件の回答を得ることが出来た。聞き取り調査では、30名の方に話を聞くことが出来た。

以上の調査から、鳩間島島民の自然観に大きく関わっている要素は、「生活に直接影響を与える自然の脅威/恵」という性質を持つということが考察された。例えば、「台風」「水」「海」「雨」「風」などである。鳩間島島民は、人間の力ではどうすることもできない自然の大いなる力を日常的に感じているということである。このことが、自然の中に暮らしがあるというイメージや、鳩間島で今なお神行事などの御嶽信仰が根強く残っていることに影響を及ぼしていると考えられる。鳩間島島民にとって自然は、いつもすぐそばにあって生活と切り離して考えることが出来ない存在であった。このことから、「自然」というものを自己から離れた、抽象化された存在としてみていないのではないかと考えられた。

海	緑	空	風	水	星
14	8	7	7	6	6
木	生き物	川	山	空気	保護
5	5	4	4	4	4
生活	鳥	台風	雨	草	共生
4	3	3	3	3	3
太陽	月	神様	昆虫	ヤガニ	歌
3	3	2	2	2	2
花	大切なもの	人間	美しい	鳩間島	動物
2	2	2	2	2	2
魚	生業	不便	その他		
2	2	2	59		

表1. フリーリスティングの回答の集計 (N=24)

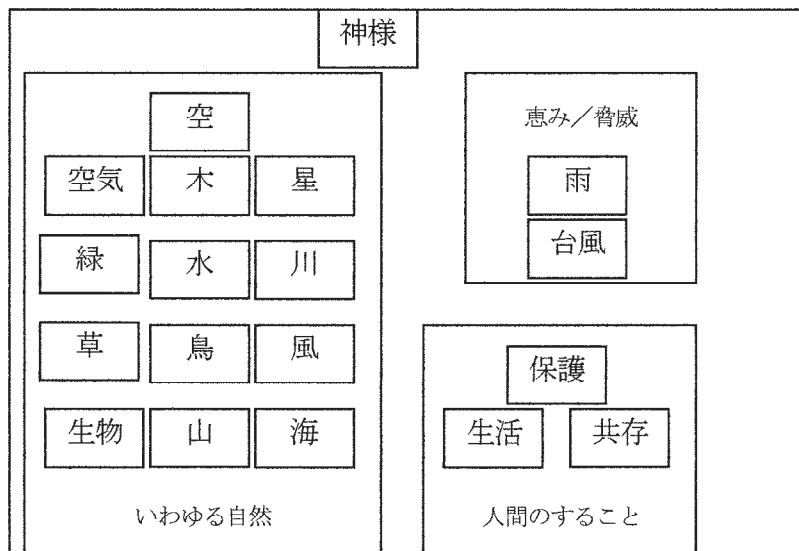


図1. パイルソーティングの一例 (40代女性、沖縄県内出身、鳩間島在住6年)